



EXSPIRIT
PARTNERS

志の高い人材を
世の中に増やす

エクスピリットパートナーズ株式会社
エデュケーション事業部

企業研修プログラムのご紹介

1. ESPの研修プログラムの特徴
2. 2つの設計ポリシー
3. 成果創出型プログラム
4. 知識・技能習得型プログラム
5. プログラム進行の流れ

以下、エクスピリットパートナーズをESPと略します

1. ESPの研修プログラムの特徴

ESPの研修プログラムには、1. 現場に対する深い理解、2. 貴社ニーズに応じたカスタマイズ、3. グローバル経営に対応、という3つの特徴があります。

1	現場に対する 深い理解	<ul style="list-style-type: none">➤ ESPは、組織・人事戦略を切り口に広範囲にわたり、「経営者と現場が主役」となるコンサルティングを展開しています。そのため、実際に現場が日々何を考えているのか、どのような課題があるのか等、現場に対する深い理解を持ちます。ESPだからこそ、現場が本当に必要とし、実際に現場が変わり・動くためのプログラムを提供することができます。
2	貴社ニーズに応じた カスタマイズ	<ul style="list-style-type: none">➤ 研修プログラムは、貴社の社員が自ら考え、答えを出し、実行していけるように支援するための一つの手段です。貴社の状況に応じて、どうすれば、貴社の人材が育つか、を貴社とともに考え、最適な研修プログラムを一緒に創り上げていきます。
3	グローバル経営 に対応	<ul style="list-style-type: none">➤ ESPは、グローバルな経営を意識した事業家を支援します。グローバル人財マネジメントの確立のために、特にアジア(中国・ベトナム等)を中心にビジネス支援を展開しています。国境を意識しないプログラムを提供できます。➤ 主なプログラムは、日本語以外に、英語・中国語での対応が可能です。

2. 2つの設計ポリシー

ESPは、①成果創出型、②知識・技能習得型、という2つの設計ポリシーのもと、研修プログラムをご提供しています。

	内容	実施単位	テーマ(例 *1)	期間	実施方法
①	成果創出型 <ul style="list-style-type: none"> ➢ コンサルティングも行う弊社だからできるオリジナルのスタイルです。 ➢ 業務上の課題を解決するためのプログラムをご提供します。ESPは成果の創出にこだわります。 	部門単位	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経営理念明確化 ・ 新規事業創出 ・ 内定辞退率削減 ・ チーム利益率向上 ・ 受注率向上 ・ リスクマネジメント・コンプライアンス強化 ・ グローバル人財マネジメント 	1日 ~6ヶ月	<div style="border: 2px solid red; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;"> 座学 +グループワーク *2 </div>
②	知識・技能習得型 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 通常の法人研修のスタイルです。 ➢ ESPに集う各分野のプロフェッショナル達が、実践で使える知識・スキルをご教授します。 	企業内の個人単位	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題解決力 ・ ロジカル・ライティング ・ プロジェクトマネジメント ・ コミュニケーション ・ コーチング ・ プレゼンテーション ・ ビジネスマナー ・ 異文化理解促進 ・ キャリアデザイン 	2時間 ~3日	<div style="border: 2px solid red; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;"> 座学+ケーススタディ +ロールプレイ </div> <div style="border: 2px solid red; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;"> E-learning *3 </div> <div style="border: 2px solid red; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;"> ビジネスゲーム </div>

*1 掲載したテーマは、一例です。貴社のニーズにあわせたテーマを設定することが可能です。

*2 貴社の事例をテーマに、グループワークにて課題の検討を行います。ESPは、解決策を導き出すことにコミットします。

*3 ESPは、特定非営利活動法人日本イーラーニングコンソシアムの会員企業です。E-learningの導入から、コンテンツの企画・運営までご支援いたします。

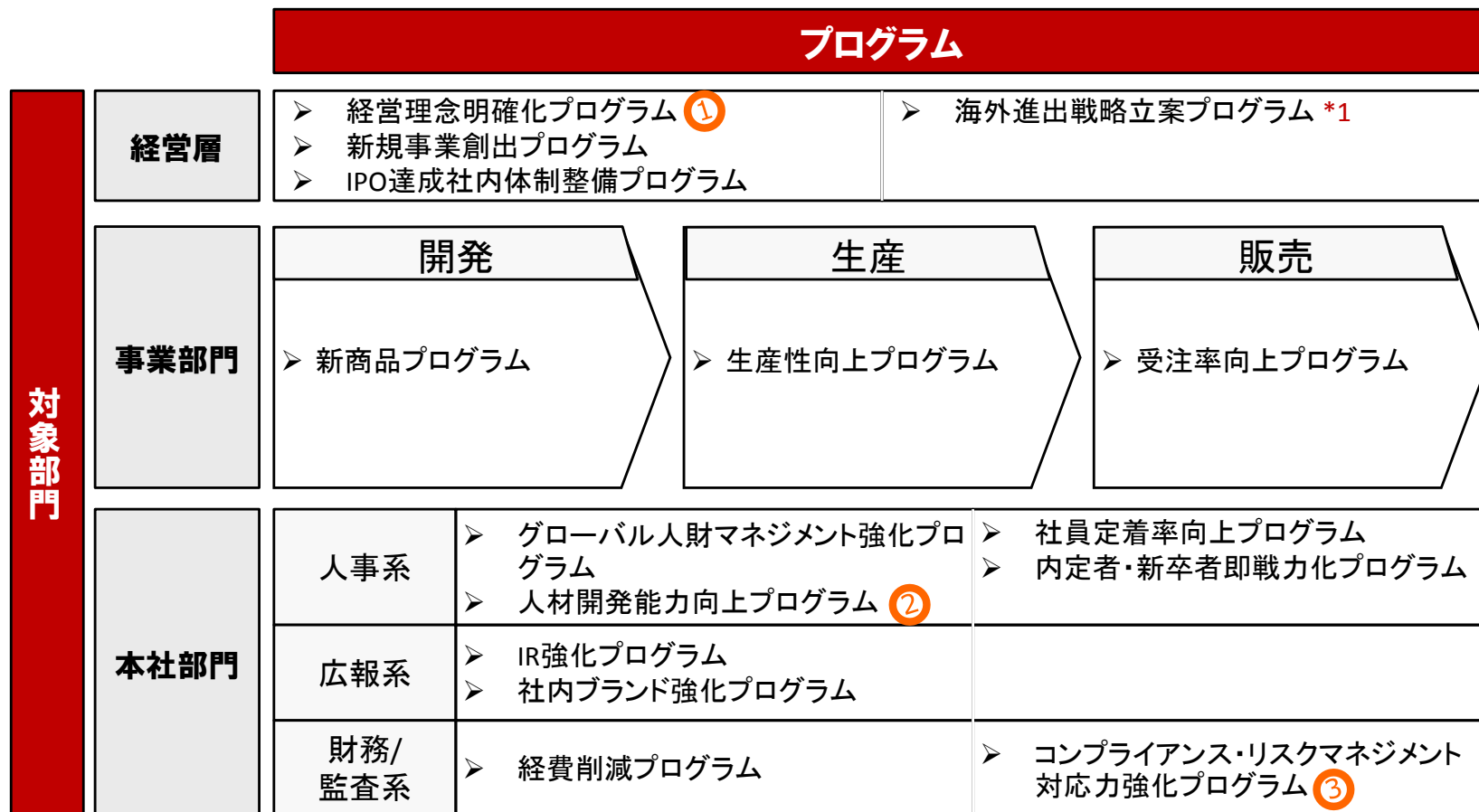
3. 成果創出型プログラム

(1) ご提供しているプログラムの体系

下図において、番号(①)のついたプログラムは、以降に詳細な説明ページがあります。その他プログラムの詳細は、お問い合わせください




成果創出型プログラムでは、経営層、事業部門、本社部門に向けた各種プログラムを用意しています。



*1 ESPは特に、アメリカ、アジア(中国、香港、ベトナム)に強みを持ちます

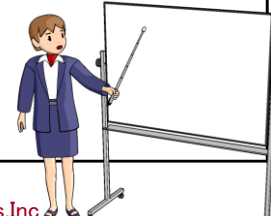
3. 成果創出型プログラム

① 経営理念明確化プログラム～次なるステージへ進化するための第一歩～

このような会社に	プログラムの特徴	標準プログラム
<p>1 自社の抱える経営課題を洗い出すとともに、優先順位をつけたい</p> <p>2 5年先、10年先を見据えて自社の目指すべき方向性を経営理念として明確に打ち出したい</p> <p>3 次の世代の経営陣を担う人材を育成したい</p>	<p>貴社の現状を洗い出し、「変えてはいけないもの(=理念)」と「変えるべきもの」を明確にし、次のステージに進むための指針を作りあげます</p> <p>現在の経営環境は、めまぐるしく変化します。変化のスピードを味方にして、元気がいい会社(例えば、アップル、ユニクロ、グーグル等)はどこが違うのでしょうか。それは、目指すべき未来像をしっかりと持っているということです。</p> <p>目指すべき未来像を作り上げ、さらなる進化を遂げるために、必要なことは2つです。1つは、「変えてはいけないもの」を明確にすること。これは、これまで貴社が培ってきたもののうち、何十年たっても続けていくべきことです。2つ目は、「変えるべきもの」を明確にすることです。これは、外部環境の変化(例えば、消費者の施行、社会情勢の変化、新しい技術の発展等)によって、柔軟に変化させていくべき事です。</p> <p>本プログラムでは、主に経営陣が熱いディスカッションを重ねることで、貴社の現状を洗い出し、さらに目指すべき未来像を作りあげていくことを目的にします。</p> 	<p>I. 経営理念を明確にする目的</p> <p>II. 現状の課題の洗い出し</p> <p>III. あるべき姿を作り出す</p> <p>IV. あるべき姿を達成するための道順を決める</p> <p>* 4人程度のグループを複数作り、チーム毎にII～IVを実施します。最後に、1つの大きな理念としてまとめあげます。</p> <p>対象・適正実施人数</p> <p>経営者および上級管理職 10人～20人</p> <p>標準所要時間</p> <p>1泊2日</p> <p>費用</p> <p>ご相談に応じます</p>


3. 成果創出型プログラム

② 人材開発能力向上プログラム～人が育つ組織を創り、企業価値を向上させる～

このような会社に	プログラムの特徴	標準プログラム
<p>1 人が育つ組織を創るために、人材開発部門のあるべき姿を検討したい</p> <p>2 受講者管理等のオペレーション部門ではなく、現場から感謝される人材開発部門にしたい</p> <p>3 人材開発を、企業価値の向上に役立てていきたい</p>	<p>人材開発部門が持つべき5つの能力を総合的に学び、企業価値向上に役立つ部門に進化させます</p> <p>多くの日本企業ではOJT重視のため、人材育成を取り仕切る人材開発部門に元気がない。しかし、本来、人材開発は、経営の重要課題のはずです。</p> <p>そこで、人材開発部門が経営からも現場からも感謝され業績向上や組織活性化を強力に支援する部門として機能する状態の創出を目指したプログラムを用意しました。</p> <p>人材開発において必要な能力は、①プロジェクトマネジメント能力、②問題解決能力、③情報活用能力、④異文化・ダイバーシティ対応能力、⑤チェンジマネジメント能力の5つです。</p> <p>本プログラムでは、これら5つの能力の全てを学ぶことが可能です。プログラムのテーマは、例えば「ベトナムに子会社を立ち上げる。現地マネージャーの採用・育成により、現地に合うマネジメントを実施したい。この場合、本社の人材開発部門は何をすべきか」といった実践的なものを扱う</p> 	<p>I. オープニング</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各種能力の基本を学ぶ 2. ベトナムの現地状況を理解する <p>II. 目的の設定</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プロジェクトの目的設定 2. 役割/スケジュールの決定 <p>III. 施策の検討</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報収集から、施策の立案まで 2. 不測の事態発生と計画の修正 <p>IV. 施策のアナウンス (発表会)</p> <p>V. ラップアップ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 後日談(施策アナウンス以降の人材開発部門の役割) 2. 総復習、クロージング <p>対象・適正実施人数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人事部(特に人材開発に関する)管理職 ・10名～20名 <p>標準所要時間</p> <p>1泊2日</p> <p>費用</p> <p>ご相談に応じます</p>

3. 成果創出型プログラム

③ コンプライアンス・リスクマネジメント対応力強化プログラム～貴社の業務リスクを見える化する～

このような会社に	プログラムの特徴	標準プログラム
<p>1 自社に存在する業務リスクを可視化して、管理できるようにしたい</p> <p>2 リスクマネジメントやコンプライアンスに関する仕組みや体制について知りたい</p> <p>3 業務リスクやコンプライアンスの具体的事例を知りたい</p>	<p>貴社の業務リスクを明確にし、管理方針の策定を行います</p> <p>現在、企業は多くのリスクにさらされています。コンプライアンス上の問題もその一つです。仮に、(意図的にも/意図せずとも)重要なコンプライアンス違反をしてしまうと、企業不祥事としてマスコミにも大きく取り上げられ、社会的な制裁を受けることになってしまいます。</p> <p>そこで、本プログラムで、コンプライアンスの意識を高め、リスクマネジメントの手法を学ぶことで、大きな問題が生じる可能性を低減させるための下地を作ることができるようになります。さらに、本プログラムは、参加者が在籍する部門に存在する業務リスクを具体的事例として取り上げ、リスク管理の一連のプロセス(業務リスクの識別、各リスクの評価、重要なリスクに対する対応方針の策定)を行います。そのため、研修終了後には、貴社に存在する業務リスクが明確になるとともに、管理方針が決定され、ノウハウとして蓄積されます</p> 	<p>I. コンプライアンスとは</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンプライアンスの基本 2. コンプライアンスを具体的に考える 3. リコール隠しはなぜ起きたのか <p>II. リスクマネジメントとは</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リスクマネジメントの基本(リスクの識別から管理方針の策定までを身近な例を持って学びます) 2. グループワークで学ぶ貴社の業務リスクの管理方法(貴社事例を使用します) <p>対象・適正実施人数</p> <p>経営者および管理職に推奨 10名～30名</p> <p>標準所要時間</p> <p>2日間</p> <p>費用</p> <p>ご相談に応じます</p>

4. 知識・技能習得型プログラム

(1) ご提供している講座の体系

下図において、番号(①)のついた講座は、以降に詳細な説明ページがあります。その他の講座についての詳細は、お問い合わせください




知識・技能習得型プログラムでは、IQ系、EQ系、ベース系の3つの領域を、新卒から管理職の方を対象に実施しております。

		対象(推奨)			
		新卒 (内定者含む)	若手	中堅	管理職
知識・技能の領域	IQ系	「考える」ための知識・技能	課題解決力養成講座 ① ロジカル・ライティング講座	プロジェクトマネジメント講座 構想力養成講座	
	EQ系	「伝える」「聴く」ための知識・技能	コミュニケーション講座 ②	コーチング講座 プレゼンテーション講座	リーダーシップ講座
	ベース系	ビジネスパーソンとしての幅を広げるための知識・技能	ビジネスマナー講座(日・英・中*1) ③	異文化理解促進講座(日・英・中*1)	キャリアデザイン講座

*1 対応言語は、原則として日本語。*1マークのあるものについては、多言語対応。日=日本語、英=英語、中=中国語

4. 知識・技能習得型プログラム


① 課題解決力養成講座 ～個々の仕事の質・効率性を高め、組織の競争力を高める～

このような会社に	講座の特徴	標準プログラム
<p>1 新しいアイデアをどんどん実現していける社員を増やしたい</p> <p>2 課題解決力を持った社員を増やし、組織の底力を上げたい</p> <p>3 若手社員の仕事の質・効率性を高めたい</p>	<p>成果を出すための仕事の考え方を身に着け、仕事の質・効率性を同時に向上させる</p> <p>経営環境がめまぐるしく変化する現代社会。ビジネスにおいては、スピードが求められます。ここで言うスピードとは、新しい事を考え、実行し、成功の確度を高めていくまで(= 試行錯誤の期間)の早さです。現在、高い競争力を持つ会社(例えば、アップル、ユニクロ、グーグル等)は、こうした力に優れています。</p> <p>本講座では、「実行」部分を扱います。つまり、仕事の効率性と質の両方を同時に向上させることで、企画の成功の確度を上げる能力を高めます。これにより、新事業立ち上げ等のプロジェクト形態の仕事はもちろん、日常業務においても、成果を上げることのできるスタッフを育成します。</p> <p>ESPの課題解決力育成講座は、他の研修会社や、コンサルティング会社が提供しているものとは異なります。それは、コンサルティングのみではなく、自らも新規の事業に挑戦し続けていることにあります。このため、本講座は、ビジネスの実現可能性を高める能力を高めることに注力しています。</p> 	<p>I. 課題解決力が求められる現代</p> <p>II. 課題解決力を構成する2つの力～仮説力と論理力</p> <p>III. 仮説力を高めてゴールをイメージ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 仮説とは 2. 仮説を立てる 3. 仮説と検証 <p>IV. 論理力でやるべき事の全体を押さえ、重要な事を見つける</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 論理力とは 2. MECEとは 3. フレームワークとは <p>V. 課題解決力の実践(グループワークによるケーススタディ)</p> <p>対象・適正実施人数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新卒～中堅社員 ・20名～30名程度が適正規模 <p>標準所要時間</p> <p>7時間</p> <p>費用</p> <p>ご相談に応じます</p>

4. 知識・技能習得型プログラム


② コミュニケーション講座 ～ビジネスや日常生活で成果を出すための実践方法～

大人気講座

このような会社に	講座の特徴	標準プログラム
<p>1 会社や日常生活でのコミュニケーションに自信のない若手社員にコミュニケーション能力をつけさせたい</p> <p>2 職場での印象をより良くして仕事を円滑に進めることのできる社員を育成したい</p> <p>3 人間関係で悩むことが多く、他社との接し方を見直すチャンスを社員に提供したい</p> <p>4 コミュニケーション作法を一度見直すことで、よりよい成績をあげる社員を育成したい</p>	<p>ビジネスでの成功を実現し、人生そのものを豊かにすることのできる社員を育てます</p> <p>今日の多様化するコミュニケーションの時代において、どんな場面でも臆することなく、自分の思い、意見を的確に伝える効果的なコミュニケーションとは何か？コミュニケーションに必要なものは、情報交換のためだけのテクニカルなスキルだけではありません。情報を伝えている「自分自身」を理解してもらい、相手をより理解すること。つまり、「情動交換」をより円滑にすることが、効果的なコミュニケーションとなります。</p> <p>本講座では、「情動交換」=コミュニケーションの理解と実践を行ったのち、ビジネスシーンで日々ためられているコミュニケーションのやり取りをチェック、改善ポイントをアドバイスさせていただきます。そのため、研修終了翌日から、すぐに実践することができる即効性の高い講座をご提供させていただきます。</p> <p>本講座は、産業カウンセラーの資格を持ち、人事の仕事を経験してきた者が監修しています</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションとは何か ・ミスコミュニケーションの起こる理由 ・良好なコミュニケーションの「特徴」 ・自分のコミュニケーションの癖を知る ・自分らしく人とかかわること ・グループワークで学ぶコミュニケーション <p>対象・適正実施人数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新卒～中堅社員 ・20名～30名程度が適正規模 <p>標準所要時間</p> <p>7時間</p> <p>費用</p> <p>ご相談に応じます</p>

4. 知識・技能習得型プログラム

③ ビジネスマナー講座 ～人の魅力を高めて企業の力を高める～

このような会社に	講座の特徴	標準プログラム
<p>1 新入社員・若手社員に正しいビジネスマナーを身に付けてもらいたい</p> <p>2 営業系スタッフ等、直接お客様に接する機会の多い社員に適切なビジネスマナーを身に付けてもらいたい</p> <p>3 海外のグループ会社に日本のビジネスマナーを伝え、競争力を強化したい (特にBtoC*1の企業に有効)</p> <p>*1 対消費者ビジネス。例えば、ホテルやレストラン等</p>	<p>演習を通してビジネスマナーを身に付け、個々人の魅力を高める</p> <p>企業にとって、人こそが商品です。人の魅力が高まれば、企業の力も高まります。これが、ビジネスマナーを身に付ける一番の目的です。ビジネスマナーは、今や国際競争力を高めるためのツールとしても有効に活用することができます。</p> <p>また、ビジネスマナーを身に付けることで、本人も周囲の人も楽しく、より効率的、効果的に働くことができます。ちょっとした変化で地震が付き、仕事だけでなく幅広い人間関係を良くするための潤滑油としてマナーが生きてきます。</p> <p>本講座では、ビジネスマナーの基本を、演習を通じて学んでいただきます。講師が一人ひとりの状況を確認しながら、改善ポイントをアドバイスいたします。</p> <p>本講座は、国際線客室乗務員にて本格的な教育を受け、そこから外資系大手コンサルティング会社にて経営を指導する者が監修しています</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第一印象の大切さ ・ ビジネスマナーとは ・ 立ち振る舞いについて ・ 挨拶の仕方 ・ 身だしなみ ・ 言葉遣い <p>対象・適正実施人数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新入社員～中堅 ・ 20名～30名程度が適正規模 <p>標準所要時間</p> <p>7時間</p> <p>費用</p> <p>ご相談に応じます</p>

5. プログラム進行の流れ

プログラムは、①ご契約まで、②プログラム設計、③プログラム実施、④事後対応、の4つのステップで進行します。

	① ご契約まで	② プログラム設計	③ プログラム実施	④ 事後対応
(ESPの役割) 内容	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 貴社ニーズの確認 ✓ ご提案書および見積書の作成 ✓ ご契約 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 貴社の人材育成課題の把握 ✓ コンテンツの企画・開発 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ プログラムの司会・進行 ✓ プログラムの講師(プログラムによっては、貴社メンバーに講師を務めていただくこともあります) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 受講者へのアンケートの実施による、満足度調査および今後の貴社課題の把握 ✓ 最終報告(報告書を提出いたします)
成果物	<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 提案書&見積書 </div>	<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 投影資料 </div>	<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 配布資料 </div>	<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 報告書 </div>
期間	1週間程度	1週間程度	数時間～6ヶ月 *2	—
費用	発生しない *3	発生する(②～④の見積書をご契約前に提示します)		

*1 その他、成果創出型プログラムの場合は、プログラム実施中に、成果物を作成する場合がございます

*2 成果創出型プログラムの実施期間は、1日～6ヶ月程度。知識・技能習得型プログラムの実施期間は、数時間～2日間程度です

*3 ご契約までは費用が一切発生しません。お気軽にお問い合わせください(お問い合わせ先は、本紙末をご参照ください)

本件に対するお問い合わせ先：
エクスピリットパートナーズ
エデュケーション事業部
info@exspiritpartners.com



EXSPIRIT
PARTNERS

エクスピリットパートナーズ株式会社

URL: <http://www.exspiritpartners.com/>

Tel: 03-5322-2852

FAX: 03-5322-2929

Address: 〒163-0532 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル32階